

点訳通信

4 5 号

盲人情報文化センター 点字製作係

550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2

TEL 06-6441-0015 FAX 06-6441-0039

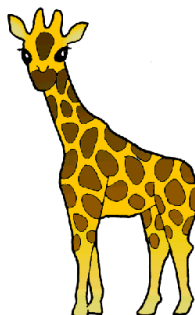
きりん

あんたが
見つめているものは
あんまり高いので
わたしは
見つめることができない。

あんたが
思いつめていることを
おもいあてることは
とてもできない。

けれど
あの遠い世界と
だまって
ただ向かい合って立っている

あんたの姿は
あんまり自然なので
よく判る。
涙が出るほど
わかる



（ 天野 忠 ）

今回は「ページ行におけるちょっと便利な操作」と「マスあけチェック」について説明します。

ページ行は文書行とは切り離された行として扱われ、ページ行だけで移動や検索ができます。また行頭や行中のマスあけチェックも簡単にできますので、覚えておくと便利です。

Win-BES になって新しい機能も増えましたが、Dos-BES と BE で使えるものがたくさんあります。操作が異なる場合もありますので、Win-BES・Dos-BES・BE それぞれの操作について記しておきます。ぜひご覧ください。
(担当：中村三枝子)

ページ行検索 (Win-BES・Dos-BES・BE)

これはページ行に入力されている文字や数字を検索する機能です。目次でページ番号を確認後そのページへ飛ぶときなどに便利です。また、原本ページを入力している場合にも、該当するページを簡単に探し出せます。

《操作方法》

(1) Win-BES → メニューの **編集** → **ページ行検索** をクリックする。

※ この操作は [CTRL] + [SHIFT] + **F 6** でもできる。

Dos-BES・BE → [CTRL] + [SHIFT] + **F 5**

ページ行の検索

入力された文字列をページ行の中から検索し、もし見つかった場合は現在位置をそのページに移動します。

検索する文字列： [:::~:]

検索するときは↑↓のキーで検索する方向を指定してください。

文頭方向に検索

文末方向に検索

ESC：編集画面に戻る

(2) 検索したい文字を入力する（スペースもOK）。

(3) 検索を開始するには、

Win-BES → 「文頭方向に検索」または「文末方向に検索」をクリックする。

Win-BES・Dos-BES・BE → [↓] または [↑]

[注] 文章全体にわたって検索する場合は、あらかじめ文頭または文末にカーソルを移動してから検索するほうがよい。

(4) 探し出すと、カーソルがそのページ行に移動する。

(5) 検索文字が見つからない場合は、**見つかりませんでした。** と表示されるか、警告音が鳴る。

ページ行の全体移動 (Win-BES・Dos-BES)

ページ行に入力されている内容を次ページに繰り下げたり、次ページから繰り上げたりする機能です。入力していた原本ページが校正などによってずれてきた場合に、全部打ち直さなくてもこの操作で修正できることがよくあります。

但し、ページ番号だけ変更したい場合は、[SHIFT] + **F 6** でページ番号を付加し直してください。

《操作方法》

- (1) 移動したいページ行にカーソルを置く。
[注] ページ行以外の位置にカーソルをおいて操作しても、何も実行されない。
- (2) Win-BES → メニューの **編集** → **ページ行下(上)移動** をクリックする。
※ この操作は [CTRL] + [SHIFT] + [Insert] または [Delete] でもできる。
Dos-BES → [ALT] + [Insert] または [Delete]
- (3) 下移動 ([Insert]) の場合……そのページ行の内容が次ページに移動し、次ページ以降のページ行の内容がそれぞれ 1 ページ分ずつ文末にずれる。カーソルのあるページ行は未入力になる。
上移動 ([Delete]) の場合……カーソルのあるページ行の内容は削除され、次ページのページ行の内容が移動してくる。次ページ以降のページ行の内容もそれぞれ 1 ページ分ずつ文頭にずれる。
- (4) ページ番号がくるうので、カーソルを本文の 1 ページ目に戻し、[SHIFT] + **F 6** でページ番号を付加する。

行頭マスあけチェック (Win-BES・Dos-BES)

本文中の行頭マスあけをチェックする機能で、行頭マスあけが奇数の行、あるいは 8 マス以上の行にカーソルが移動して、マスあけを確認することができます。校正時に気づかなかったマスあけのミスを機械的に探すことができ便利です。各巻が完成したとき、データの修正が完了したときなどに、念のためこのチェックを試みましょう。

《操作方法》

- (1) チェックを開始したい位置にカーソルを置く。
- (2) Win-BES → メニューの **校正** → **行頭マスあけチェック下(上)方向** をクリックする。
※ この操作は [CTRL] + [SHIFT] + [pagedown] または [pageup] でもできる。
Dos-BES → [Alt] + [↓] または [↑]
- (3) 行頭マスあけが奇数、あるいは 8 マス以上あいている行の行頭にカーソルが移動するので、確認する。
- (4) 該当する行がなければ、警告音が鳴り、カーソルは移動しない。
- (5) 続けて検索する場合は、同じ操作を繰り返す。

行中マスあけチェック (Win-BES・Dos-BES)

本文中のマスあけが正しくできているかどうかをチェックする機能で、語と語の間が2マス以上、句点の後が3マス以上あいている箇所にカーソルが移動して、マスあけを確認することができます。検索された箇所がすべて間違いというわけではありませんから、確認して間違いであればデータを修正してください。また、日本語の句点なら2マスあけ、英文のピリオドなら1マスあけというような細かいチェックはできませんので、あくまでもこの操作は補助的なものと考えてください。

前述の行頭マスあけチェックと同様に各巻が完成したとき、データの修正が完了したときなどに、念のためこのチェックを試してみましょう。

《操作方法》

- (1) チェックを開始したい位置にカーソルを置く。
- (2) Win-BES → メニューの **校正** → **行中マスあけチェック下(上)方向** をクリックする。
※ この操作は [CTRL] + [SHIFT] + [End] または [Home] でもできる。
Dos-BES → [Alt] + [SHIFT] + [↓] または [↑]
- (3) 行中マスあけが2マス以上、句点の後が3マス以上あいている位置にカーソルが移動するので、確認する。
- (4) 該当する箇所がなければ、警告音が鳴り、カーソルは移動しない。
- (5) 続けて検索する場合は、同じ操作を繰り返す。

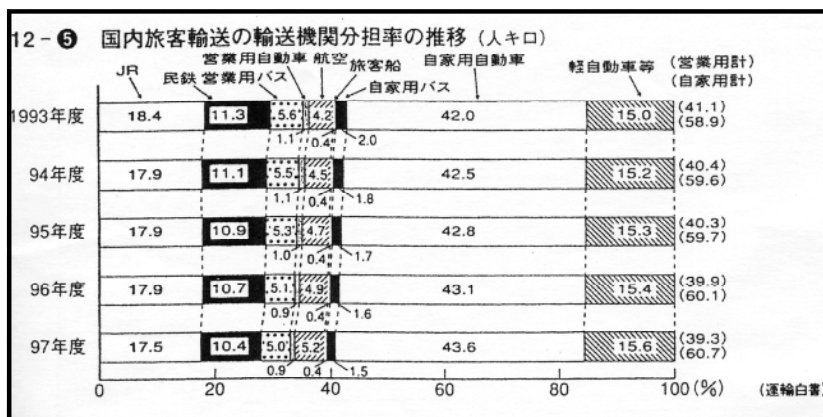
Timetable

| | |
|-------|------------------|
| 2月28日 | 総合ないぶネット研修会 |
| 3月 2日 | 曜日担当者勉強会 |
| 8日 | ボランティア交流会 |
| 15日 | コモド（楽譜点訳グループ）活動日 |
| 16日 | 数学勉強会 |
| 22日 | 英語勉強会 グループY.Y. |
| 29日 | 点訳技術講習会修了式 |
| 4月 5日 | コモド（楽譜点訳グループ）活動日 |
| 6日 | 曜日担当者勉強会 |
| 10日 | 2校者の集まり（13時～） |
| 19日 | コモド（楽譜点訳グループ）活動日 |
| 20日 | 数学勉強会 |
| 26日 | 英語勉強会 グループY.Y. |

表の書き方について

10月24日の勉強会は再び「表」の点訳についてでした。表の点訳に当たっては点字になったものが読みやすく、わかりやすいことが重要ですから、もとの表の内容や形によって色々な点訳の仕方が考えられます。今回も一つの表についていくつかの点訳例を用意して検討しました。小原さんのご意見を含めて報告します。

[例1]



—— 余白を利用してちょっとお知らせ

指点字を知らない人も当事者と情報交換できるシステムを開発中 埼玉・日本工業大で

埼玉県にある日本工業大学工学部の片山滋友（かたやましげとも）教授の研究チームが、盲ろう者のコミュニケーション手法の指点字を知らない人も、インターネットを通して気軽に当事者と情報交換できるシステムの研究・開発に取り組んでいる。

このシステムは、伝えたいメッセージをかな文字でパソコンに入力して点字変換。点字データを盲ろう者側のパソコンに送り込み、接続した左右3本ずつの指ロボットが指をたたいてメッセージを伝える仕組み。また、盲ろう者からのメッセージも点字データでパソコンに入力して送れる。

片山教授は10年前、アメリカで盲ろう者用指文字コミュニケーション機器を視察。深刻な情報障害でもある盲ろう者の実態を知り、4年前から指点字によるコミュニケーション方法の研究を重ねてきた。現在は、基本的なシステムを試作を終えた段階で、今後は被験者となってくれる盲ろう者を募り、指ロボットによる識字状態、システムの使い勝手など意見を聞きながら改良を重ねる予定。被験者の問い合わせは、電話0480・33・7467の片山教授。

このコーナーは図表勉強会 → とは関係ありません

点訳例（１）

[illegible]

点訳例（2）

12_5 コクナイ リョカク ユソーノ ユソー
キカン プンタンリツノ スイイ
||ヒョーヲ フタツニ ワケル。 1ヒョーヲ 93・
94・ 95ネンド、 2ヒョーヲ 96・
97ネンド。 _エイギョー ジドー_ワ エイギョーヨー
ジドーシャ、 _ジカヨー ジドー_ワ ジカヨー
ジドーシャ。 スーゾノ タンイワ p||

Figure 10: A 5x10 grid of 50 small square plots, each containing a 10x10 grid of dots. The plots are arranged in 5 rows and 10 columns. The first row contains 10 plots, the second row contains 10 plots, the third row contains 10 plots, the fourth row contains 10 plots, and the fifth row contains 10 plots. The plots show various patterns of dots, including horizontal lines, vertical lines, and clusters of dots. The plots are arranged in a grid that is 5 rows high and 10 columns wide.































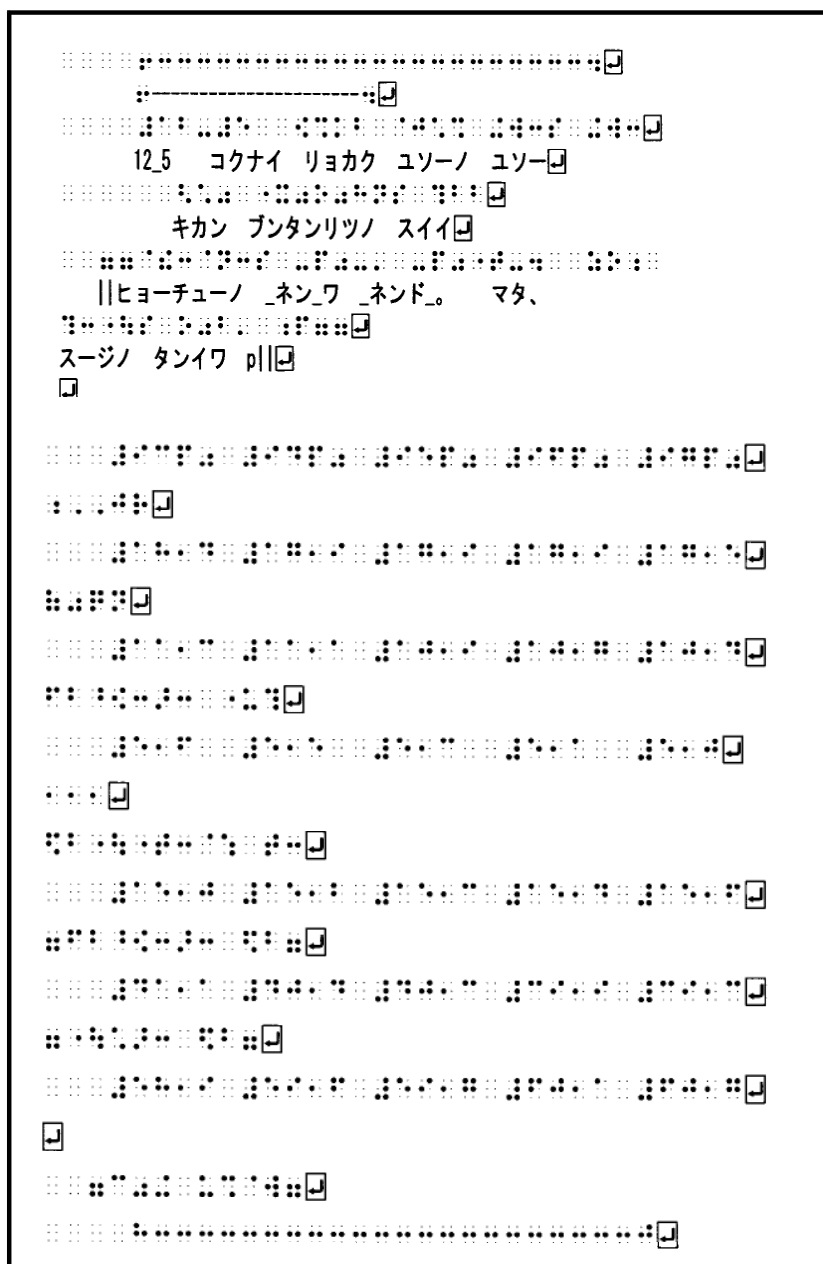































Figure 10: A sequence of 1000 images showing the evolution of a pattern on a 10x10 grid. The pattern starts as a small cluster of black dots in the top-left corner and gradually spreads across the grid, forming a complex, fractal-like structure. The final image shows a dense, interconnected pattern of black dots covering most of the grid.

[illegible]

Figure 1. Schematic representation of the experimental design. The first part of the experiment consisted of a 10-min familiarization period. The second part consisted of 10 trials, each with a 10-min familiarization period followed by a 10-min test period. The third part consisted of 10 trials, each with a 10-min familiarization period followed by a 10-min test period. The fourth part consisted of 10 trials, each with a 10-min familiarization period followed by a 10-min test period. The fifth part consisted of 10 trials, each with a 10-min familiarization period followed by a 10-min test period. The sixth part consisted of 10 trials, each with a 10-min familiarization period followed by a 10-min test period. The seventh part consisted of 10 trials, each with a 10-min familiarization period followed by a 10-min test period. The eighth part consisted of 10 trials, each with a 10-min familiarization period followed by a 10-min test period. The ninth part consisted of 10 trials, each with a 10-min familiarization period followed by a 10-min test period. The tenth part consisted of 10 trials, each with a 10-min familiarization period followed by a 10-min test period.

点訳例（３）



読み比べてみると点訳例（１）よりは、縦・横に点字をたどって読める（２）（３）のほうが読み取りやすいことがわかります。一つの表は分けなくて書く方が読む時に便利なので、この表の場合は（３）が一番よいということになりました。

（３）の書き方を初めてごらんになった方も多いと思いますが、これは表を１枚に点訳するための緊急避難的な書き方です。できれば項目を短く略記したりして、項目と数字などが同じ行になるように工夫します。

（１）の場合でも１９９５年度以下がいつも２行目になるように書いてあれば、いくらかわかり易くなる、と小原さんのご意見です。

出典の（運輸白書）の位置について質問がありましたが、このように短いものはすぐ次の行の行末にいれてもよいが、長いものは１行あけて３マス目から書くとよいとのことです。

[例 2]

| | 輸送人員（億人） | 輸送人キロ（億人キロ） | 平均輸送距離（キロ） |
|-------|----------|-------------|------------|
| 鉄道 | 222.4 | 3,949.3 | 17.8 |
| J R | 88.6 | 2,476.5 | 28.0 |
| 民鉄 | 133.9 | 1,472.8 | 11.0 |
| 自動車 | 621.5 | 9,449.7 | 15.2 |
| バス | 73.1 | 929.0 | 12.7 |
| 乗用車 | 384.3 | 6,314.3 | 16.4 |
| 軽乗用車 | 134.3 | 1,486.1 | 11.1 |
| 貨物自動車 | 29.4 | 720.3 | 24.5 |
| 航空 | 0.86 | 732.4 | 856.1 |
| 旅客船 | 1.45 | 53.5 | 37.0 |
| 総輸送量 | 846.3 | 14,184.9 | 16.8 |

（運輸白書）

点訳者注の部分

点訳例（1）

| |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p> ユソー キカンベツ コクナイ リョカク ユソーリョー 97ネンド ヒョー ダイ1ギョーノ コーモクワ ツギノ トオリ。 _ジンイン_ワ ユソー ジンイン、_ニンキロ_ワ ユソー ニンキロ、_キョリ_ワ ヘイキン ユソー キョリヲ アラワシマス。 ナオ タンイワ、_ジンイン_ワ オクニン、 _ニンキロ_ワ オクニンキロ、_キョリ_ワ キロ。 マタ、 ジドーシャノ コーノ _ジョーヨー_ワ ジョーヨーシャ、 _ケイ_ワ ケイジョーヨーシャ、_カモツ_ワ カモツ ジドーシャヲ アラワシマス。 </p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

点訳例（２）

ユソー キカンベツ コクナイ リョカク
 ユソーリョー|97ネンド|
 ||ヒョー ダイ1ギョーノ コーモクワ ツギノ
 トオリ。
 ジンイン ユソー ジンイン|タンイ オクニン|
 ニンキロ ユソー ニンキロ|タンイ オクニンキロ|
 キョリ ヘイキン ユソー キョリ|タンイ キロ|
 マタ、 ジドーシャノ コーノ _ジョーヨー_ワ
 ジョーヨーシャ、 _ケイ_ワ ケイジョーヨーシャ、 _カモツ_ワ
 カモツ ジドーシャノ リャクデ アル。||

点訳例（３）

ユソー キカンベツ コクナイ リョカク
 ユソーリョー |97ネンド|
 ||ヒョーチュー ツギノヨーニ リャツキ スル。
 ジンイン ー ユソー ジンイン|オクニン|
 ニンキロ ー ユソー ニンキロ|オクニンキロ|
 キョリ ー ヘイキン ユソー キョリ|キロ|
 ケイジョーヨー ー ケイジョーヨーシャ
 カモツ ー カモツ ジドーシャ||

このような注意書は、なるべくわかり易く簡単にということから、(3)が良いという意見が多数でした。ただし、略称が多く列記されている場合は、点訳者挿入符の閉じを次の例のようにすると、いいでしょう。

(3) の改良例

| | | | |
|------|-------|-----|-------------|
| ヒョーノ | コーモクワ | ツギノ | トオリ |
| ジンイン | ー | ユソー | ジンイン オクニン |
| ニンキロ | ー | ユソー | ニンキロ オクニンキロ |
| ... | | | |

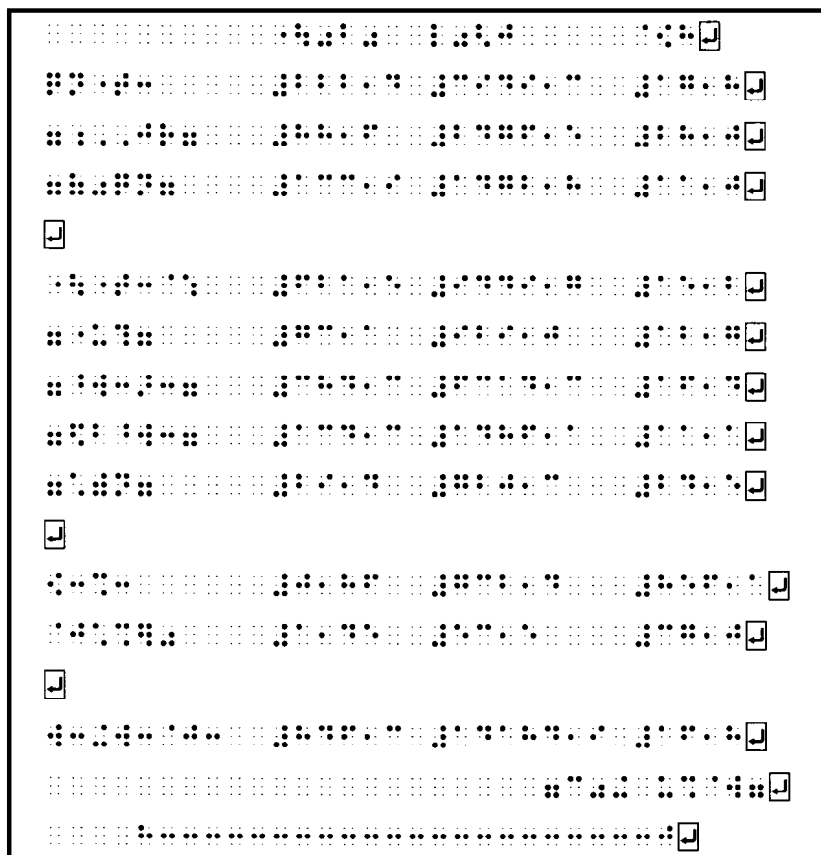
なおこの表では略記する項目が多いために(3)が良いことになりますが、項目が少ない場合は(1)の書き方でいいのです。どちらにしても「第1行の」という言葉は必要ないでしょう。

表の部分

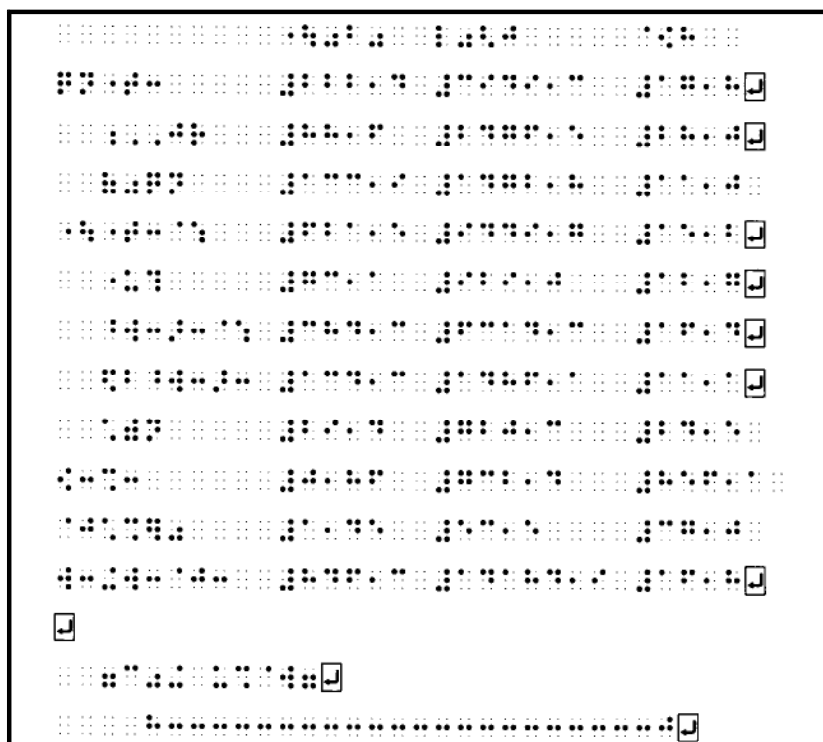
点訳例(1)

| | | | |
|------|-------|-----|-------------|
| ヒョーノ | コーモクワ | ツギノ | トオリ |
| ジンイン | ー | ユソー | ジンイン オクニン |
| ニンキロ | ー | ユソー | ニンキロ オクニンキロ |
| ... | | | |

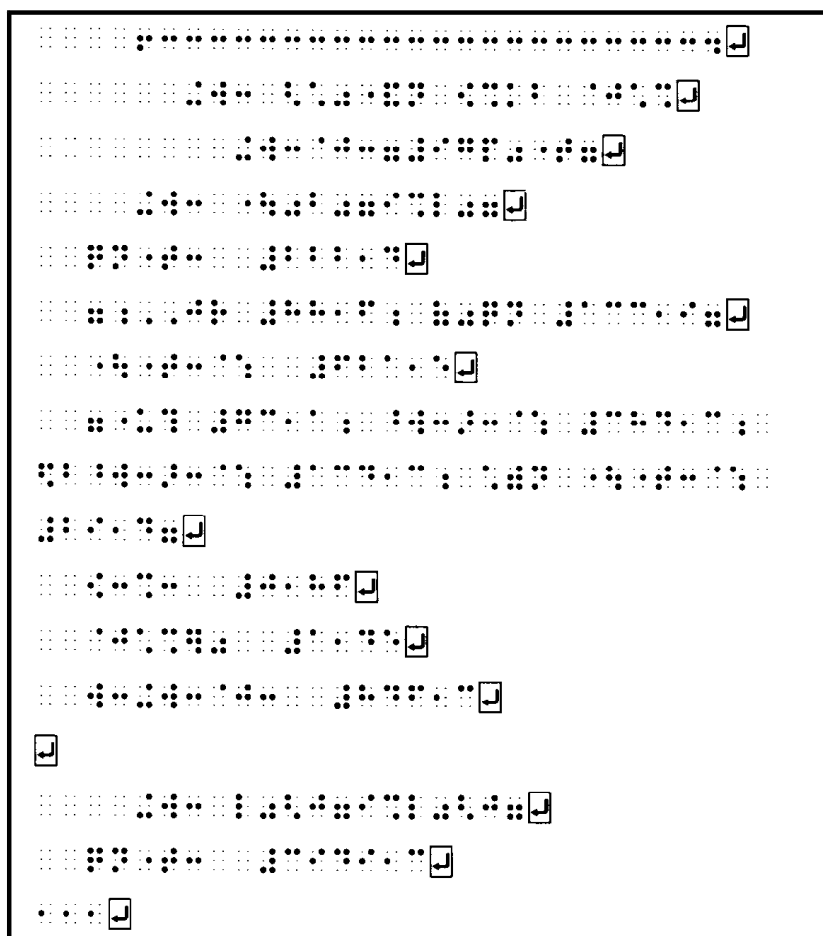
点訳例（2）



点訳例（3）



点訳例（4）



このような表はあまり点訳されていないせいか、どれがよいというよりも、こんなことをしてもいいのかと思った方が多く、質問が集中しました。以下小原さんのお答えを、一般的な注意もまじえてまとめました。

○項目と項目や数字のあいだは本来2マスあけるのですが、1マスあけにすることで1行に書ける時は1マスでよい。各項の出だし（この表では数符）を縦にそろえるので、あいだのマスはそろわないことが多い。数符を省くのは出来るだけ避けます。

○項目の大きさの違いをどう表わすかについて、本文中の見出しなどでは大きい項目の方を行頭から下げますが、表を縦・横に項目をたどる形式で書く場合には、大きい項目の方が数字が大きいことが多いので、（3）のような書き方をすると便利でわかり易い。またこの表では、（2）のように小さい項目をカッコで括るのはしないほうがよい（カッコを使わないと書けない場合もあります）。また（4）は、どうしても表形式にできない時に使うことはありますが、縦・横にたどれないのでこの表の場合には適当ではありません。

○表が2ページにわたる時は大きい項目のところから移し、項目の見出し（ここでは人員・人キロなど）も書く。（項目の数が少ない時や、A・B・Cなどとおぼえ易いもの場合は入れなくてよい。）

○表の前後にある「注」は、表を読むのに直接必要なものは表の前に、その他のものや出典に近いものは後に書く。

○あまり長くない表がいくつか続く場合は、一つ一つを枠でかこまないで表と表の間に区切り線（12マス点線）を入れ、全体を一つの枠に入れる。表のタイトルは必要に応じて4マスあけ、6マスあけなどで書く。

○図1－2などを書いてあるグラフなどを表にした場合は、それがわかるような点訳者注を入れる。（例）
⠠⠠⠠⠠円グラフから読み取った数字を表にしました。⠠⠠⠠⠠

表の点訳は点訳者の創意工夫がいかされる場面かもしれません。色々な表に挑戦してみてもいいのではないでしょうか。

お詫び 今回は点字画像を多用したため、読みにくいレイアウトになってしまいました。